

教育センター学びの丘長期研修員研修の概要について

串本町立 潮岬小学校
教諭 和田 和美

和歌山県教育センター学びの丘における長期研修員研修は、今日的教育課題解決に資するため、教育に関する専門的・技術的事項について研修し、教職員としての資質能力を高め、その成果を本県教育の充実に生かすことを目的として実施されている。述べるまでもなく、教員は絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない。「研究」とは、辞書によれば「物事について深く考えたり調べたりして真理を明らかにすること」とある。「修養」とは「知識を高め、品性を磨き、自己の人格形成に努めること」とある。今回、研修を「自己の専門性をより向上させるための研究と教員としての資質を広く高める修養の機会」として受けとめ、1年間研鑽を積むこととなった。

研修は5つの段階が設定された（図参照）。研究では、第1段階（基礎期）では研究に関する基礎基本を学んだ。第2段階（向上期）では研究計画立案や模擬授業等に取り組み、第3段階（探究期）では所属校で授業研究を実施した。第4段階（充実期）ではデータ分析と研究発表を行い、第5段階（修了期）では研究成果物を作成した。修養では、授業力・学校組織開発力・校内研修運営力の向上トレーニングが段階ごとに実施され、学校におけるミドルリーダーの役割と行動について年間を通じて学んだ。加えて、センターが実施する多岐に渡る研修講座や指導主事等による「研修員研修」の受講や、所属校における学校課題解決のための校内研修参加等をとおして、幅広く教員としての力量向上を目指してきた。

もう少し具体的に述べれば、研究では、問題意識に迫るために先行研究や理論を学ぶことで考え方の裏付けを得ることができ、今までの自身の授業を見直せた。また、学びの丘の研修員は、校種、教科が異なる。研修員の仲間関係が自身の1年間の研究を後押しした。それは、小学校6年間の系統性が、中学校へ、そして、その先へと繋がることを意識できたからである。このような学びの連続性を大切にする授業づくりに取り組む必要性を1年間の研究から強く感じた。

修養では、初任者研修や教科等の研修講座を受講したことで、学級づくりや授業づくりの基本となることを確認する機会となり、新しい知識を得ることができた。また、学校教育コミュニティに関する研修など、様々な角度から学校を観る視点も得た。今後も学び続ける姿勢を持ち、学校組織運営も意識しつつ、学校教育全体を捉え、校内研修の推進役等、自身の役割を果たすことができるよう努めていきたい。

なお、それぞれの課題に基づき年間を通して行った研究については、別途「研究報告書」としてとりまとめることとする。

段階	第1段階 基礎期	第2段階 向上期	第3段階 探究期	第4段階 充実期	第5段階 修了期
月	4月～5月	6月～8月	9月～11月	12月～1月	2月～3月
研究	・研究テーマ、方向性を設定し、第1回報告会で発表	・所属校での授業研究に向けての単元計画、資料等作成、模擬授業	・授業研究計画を第2回報告会で発表 ・授業研究の実施	・実施した授業研究の収集データ分析 ・和歌山教育実践研究大会で発表	・研究報告書、資料の作成 ・研究成果の普及
修養	所属校研修〔所属校との連携・研修成果の還元〕 ■「授業力」・「学校組織開発力」・「校内研修運営力」向上トレーニング ■専門性の向上を目指す研修講座受講 ■初任者研修、10年経験者研修聴講 ■学びの丘指導主事等による研修員研修				

図 研修の概要